



# ほんものを たべよう

提出日  
5/ 22 23 24 25

配達日  
5/ 29 30 31 6/ 1

翌々週配達日  
6/ 5 6 7 8

2018.6月1週号

Alter Weekly Order Catalogue

## オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

## エディブルフラワー EDIBLE FLOWER

# エディブルフラワーで 食卓に彩りを

自然栽培、自家採種の食べられる花。

## うむ農園(兵庫県)

文責 西川 榮郎(NPO 安全な食べ物のネットワーク オルター 代表)



高橋 秀彰さん・麻美さん

### 自然栽培で安心、エディブルフラワー

兵庫県丹波市市島町のうむ農園の高橋 秀彰さん・麻美さんは、農薬、化学肥料はもちろん有機肥料も使わない自然栽培で、野菜やエディブルフラワー(食用花:食べられる花)を栽培しています。種子も自家採種するという徹底ぶりです。

オルターへはこれまで「とれとれ!おまかせ野菜パック」や小豆、青大豆、黒枝豆、パスタ大麦(パスタ感覚で食べられる大麦)などを出荷していただいています。

エディブルフラワーとしては、カモミール、ローマンカモミール、なでしこ、コーンフラワー、ズッキーニ、人参、春菊、マリーゴールド、パクチー、矢車菊、ポリジ、ピオラ、バラの花などを栽培しています。

エディブルフラワーは、主に食卓の彩りを目的として使用されます。そのままサラダにして、新鮮な野菜のように食べられます。デコレーションケーキや寒天ゼリー、アイシングクッキーのアクセントなど、使い道はさまざまです。

高橋さんのエディブルフラワーは自然栽培で、農薬を使っていませんので安心して食べることができます。

### Iターンで移住

高橋 秀彰さんは千葉県出身です。奥丹波へは2013年、Iターンで移住しました。

早稲田大学を中退後、障がい者施設に勤務し、そこで有機農業の研修を受けました。ある日、自分がエジプト人になり、金色に輝く大麦の穂を見て歓喜している夢を見ました。その時の気持ちを再現したくて、奥丹波への移住を決めました。丹波市市島町は昔から有機農業の



盛んな土地柄、Iターンの先輩、岸下 正純さんら仲間にも恵まれています。

うむ農園は2015年に設立しました。自然栽培農家のサポート事業としてインターネット販売サイトも作成しています。

### お母さんたちが知恵を持てば

奥様の麻美さんは、2007年から京都市で、こども絵画工作アトリエを自宅の一室にて開いていました。やがてアロマ、石けん、手作りコスメなど大人向けレッスンも頼まれて始めました。お母さんたちが知恵を持てばより良い世の中になると確信し、ヨーガや心理学の講座を講師に依頼して、お母さんたちを集めたサークル活動にも取り組みました。

そのうち、畑を借りて女性たちだけで自然農を始めました。そんな折、豆の自然栽培農家が丹波にいるから見学に行こうと誘われて、夫である秀彰さんとの出会い、結婚されました。

### 忙しい日々、いっぷくを

麻美さんは自然農がしたくて移住しましたが、今では大勢の人へ自然栽培の野菜を届けたいと思うようになりました。オルターとも出会い、2016年からオルターへの出荷が始まりました。

現在、約20町歩の畑で、大麦、小麦、ライ麦、大豆などを栽培し、研修生やたくさんの方々が来て、畑仕事を手伝ってくれています。昔、食卓にあった大麦を復活させたいと思っています。

麻美さんが、かつて美術をしていた時にいつも思っていたことは、「人が惹きつけられる美しさは自然の中にある」ということです。食べることは生きることと直結していて、芸術活動そのものと感じています。作り手も食べ手もハッピーになれる、暮らしのお手伝いがしたい。普段の料理に花を散らすだけで彩り豊かになります。時間がない、ないと追われているいつもの生活に、花を添えて一息つける!そこで、はたと気づく。それがうむ農園の役目だと考えています。

## うむ農園の エディブルフラワー ☆☆☆

●防除  
農薬使用なし

●肥料  
圃場には種子以外何も持ち込みません。  
雑草の力を借りて植生遷移を促し、作物ごとにその植生にあった環境を用意します。